

発達の課題を抱える子どもをもつ母親が振り返る子育ての意味づけ
—不登校・発達障害支援の現場で関わった母親たちのインタビューから—

立命館大学大学院応用人間科学研究科
臨床心理学領域 発達臨床福祉クラスター
川島 裕子

本研究は、不登校やひきこもり等の社会問題に関して、発達の課題を抱える子どもを育てる母親たちの子育ての意味づけのプロセスを通して、子育てで体験した困難をどのように心に収めようとしているかを明らかにするものである。

具体的には、子どもが不登校の経験がある、または精神疾患・発達障害と診断された子どもがいる母親にインタビューを行い、子育ての苦労や大変だった時期を振り返ってもらい、子育ての意味づけの特徴を捉える。

その結果、3つの意味づけのカテゴリー「感情による意味づけ」「特別なものとしての意味づけ」「生活の一部としての意味づけ」から、5つの意味づけパターン「自責の念を伴う、試練としての意味づけ」「責任と役割意識を伴う、積極的で前向きな意味づけ」「当たり前のものとしての意味づけ」「感情のみの意味づけ」「振り返り総括する意味づけ」を明らかにした。シーケンス分析では、母親たち個人の視点からストーリーを再構成し、その子育て体験の意味づけプロセスの中で、パターンの特徴を捉えることができた。

母親たちが子育てを意味づけ、価値観と彼女たち自身を変容させていくことを支えるという支援のあり方を提示した。